

全体	47
個別	13-01

平成30年度 [教育委員会事務局] 目標の成果

課名	教育総務課
----	-------

区分	項目	島っこ留学制度による留学生の招致推進
1	【内容】 「島っこ留学制度」は、豊かな学びと地域における体験活動等を願う島外の方を対象に、市内の小・中学校に入学または転学を希望される児童・生徒を受け入れ、対馬市の学校並びに地域の活性化と教育の振興・充実を図る事を目的として平成27年11月からスタートした制度です。 複式学級の解消にも有効で、今年は、西小校区、仁田小校区等を受入地域として体験留学、広報事業を実施します。また、里親を再募集するとともに「島っこ寮」の整備を推進します。	
組織目標	【指標】 ・留学生招致 3名以上（小学生若しくは中学生） →体験留学（5組10名程度）を実施します。 →専用HP・SNSに重点をおいた広報事業を実施します。 →福岡での事業説明会を1日実施します。 →島っこ寮をモデル的に1棟整備する準備をします。	
2	里親として三根地区2名・仁田地区2名の計4名を確保できました。 平成30年度4名の留学生のうちの3名と、平成31年度新規で7名の留学生を招致できました。	
実績（成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・西小学校 3名（3年女子 1名、5年男子 1名、6年男子 1名） ・西部中学校 5名（1年男子 2名、1年女子 1名、2年男子 1名、3年男子 1名） ・仁田中学校 2名（1年男子 1名、3年男子 1名） 合計10名 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の2年間は招致ができませんでしたが、平成29年度は4名（うち1名は3月修了）、30年度は7名の留学生招致に成功しました。 ・体験留学では、5世帯13名の参加者があり、うち4名が留学生となりました。 ・福岡事業説明会に4名の参加者があり、うち3名が留学生となりました。 ・事前視察を7世帯受け入れ、うち5名が留学生となりました。 ・広報・啓発事業は専門業者と委託契約し、ホームページの運営・更新、活動写真撮影、SNS等による情報発信、チラシ作成を実施しました。 	◎
4	<ul style="list-style-type: none"> ・里親を確保するため、再度募集をかける必要がありますが、非常に困難な状況です。 ・受入体制の充実を図ることが急務であります。 ・SNS等インターネットを利用した広報活動や情報発信に重点をおいて展開する必要があります。 ・体験留学は、体験希望児童生徒のうち、可能性が高い方から選出し、効果を高める必要があります。 	
今後の展開		

全体	48
個別	13-02

平成30年度 [教育委員会事務局] 目標の成果

課名	学校教育課
----	-------

区分	項目	ふるさと対馬を愛し、豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成
1	【内容】 [対馬の未来を担う人材育成のための教育の推進] 1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 4. 校種間連携、地域との連携の推進 5. 幼稚園・こども園教育の充実 【指標】 1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 (1) 学校訪問時及び各種研修会における指導助言(2) ICTを活用した授業支援、研修会の実施 2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 (1) ふるさと学習及び総合的な学習の時間の全体計画作成(2) 部活動休養日の設定 (3) フッ化物洗口推進事業 3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 (1) SSW及びSCとの連携と効果的活用(2) 教育支援委員会の充実 4. 校種間連携、地域との連携の推進 (1) 中学校と高等学校の連携強化 5. 幼稚園・こども園教育の充実 (1) 特色ある園づくり	
2	実績(成果)	1. 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 (1) 指導法改善研修会を小・中で各1回、合同で1回。研究指定校8校の支援しました。 2. 心豊かでたくましく、郷土を愛する児童生徒の育成 (1) 全ての学校において、ふるさと学習全体計画を作成しました。 (2) 新任校長校等11校を訪問し、道徳の授業参観と指導助言を実施しました。 3. 生徒指導及び特別支援教育の充実 (1) SSWと3回、分教室の担当者と4回の情報交換会を行いました。 (2) 不登校児童生徒の調査を毎月実施した。状況改善には至っていません。 (3) 「フリースペースみちしるべ」を、市運営の「教育支援センター」として新設しました。 4. 校種間連携、地域との連携の推進 (1) SSW及びSCとの連携と効果的活用を図ることができました。 (2) 対馬市中高連携競技系を立ち上げ、また、上対馬高と豊玉高の魅力化推進協議会に参加しました。さらに、対馬市上地区連携型中央一貫教育に係る推進協議会を1回開催しました。 5. 幼稚園・こども園教育の充実 (1) 園長会を5回、研修会を5回実施しました。また、比田勝こども園の研究園援助を実施しました。
3	評価	○ 各種研修会や学校訪問、研究指定校事業などを計画通りに実施し、教職員への指導や助言を通して、目標の実現に努めることができました。 (1) 確かな学力の定着に向けて、指導法改善研修会や複式指導法研修会等の各種研修会を実施して教職員の指導力向上に努めることができました。 (2) 10年経験者研修や学校訪問等の際に、道徳の授業参観や授業づくりの指導を行い、道徳教育の充実につなげることができました。
4	今後の展開	(1) ふるさと学習の一層の充実に資するため、各学校の全体計画の工夫や、校種間連携を意図した学習内容の整理を指導します。 (2) ICT機器の効果的かつ積極的な活用を促すとともに、教職員を対象とする研修の充実に努めます。 (3) 今年度開設した、「教育支援センターみちしるべ」の活動を支援するとともに、今後の在り方について随時検討していきます。 (4) 今年度導入予定の校務支援システムの効果的な活用や管理職員への指導を通して、教職員の働き方改革を推進します。

全体	49
個別	13-03

平成30年度 [教育委員会事務局] 目標の成果

課名	生涯学習課
----	-------

区分	項目	地域の特徴を活かした生涯学習の推進
1	組織目標	<p>【内容】</p> <p>○ しまの魅力に会う 日本の宝「しま」交流支援事業 長崎県内の離島（対馬、壱岐、五島）3地区で「しまの魅力に会う交流支援事業」が開催されます。 本市では、7月24日～27日までの4日間、「対馬shima大作戦」と題して夏休みの思い出づくり事業を実施します。 「しま」の人々や参加者同士の交流を深めるとともにシーカヤックやツシマヤママネコ（自然）など、特有な文化、対馬の魅力をも再認識し、実行委員会を中心として、しま全体をフィールドとした活動により、地域教育力の向上と島の活性化の支援を目指します。</p> <p>【指標】</p> <p>○こどもコース（3泊4日） ○小学4年生～中学3年生コース 定員：島外40名、島内20名 ○大学生・高校生・教職員ボランティア 10名</p>
2		<p>県内全体の事業目的として、「国境離島の重要性を認識させる」という項目が新たに追加されたことや、より事業内容が伝わるようにするためにテーマを「つくる・しる・まじわる『つしま』大作戦」に変更しました。また、平成29年度の活動場所は中対馬・下対馬が中心となっていたが、平成30年度は対馬市全体を網羅した形の体験プログラムを計画し、実施することができました。また、実行委員会委員数も平成29年度7名から平成30年度9名に増加しました。 実施した体験活動は下記のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権現山トレッキング（上対馬地区） ・ツシマヤママネコを知る（上県地区） ・対馬青年の家での野外炊飯（峰地区） ・渡海船クルージング（豊玉地区） ・シーカヤック体験（美津島地区） ・地藏盆体験（厳原地区） <p>【成果】</p> <p>○ こどもコース（平成30年7月24日から7月27日までの3泊4日） ○ 小学4年生～中学3年生コース 51名（島外39名、島内12名） ○ 大学生・高校生・教職員ボランティア 8名</p>
3	評価	<p>対馬市全体を網羅した体験プログラムの企画ができたことによって、参加者は対馬の魅力を感じました。参加者に対する事後アンケートでも95%が「とても楽しかった」と回答しており、その満足度も高かったと言えます。</p> <p>しかし、60人（市外40人、市内20人）を参加予定としていたところ、実際の参加者は51名でした。市外参加者については、直前のキャンセルによるものですが、市内参加者については、定員を下回る参加申込数でした。</p>
4		<p>より充実した体験プログラムを企画するため、実行委員会委員を増加させます。また、次年度は、体験プログラムによるインプットだけでなく、対馬での体験を経て、その成果をアウトプットする活動を取り入れ、参加者に対して、より深い学びを提供できるような事業内容の検討を行います。</p> <p>また、参加者の募集について改善を図り、より多くの子どもの学びの機会を提供できるよう努めます。</p>
今後の展開		

全体	50
個別	13-04

平成30年度 [教育委員会事務局] 目標の成果

課名	文化財課
----	------

区分	項目	文化財の保存・活用
1	【内容】 ① 指定文化財の保存整備を継続して実施します。 ② 「豆穀赤米行事周知事業」を実施します。	
組織目標	【指標】 ① 国指定史跡2箇所、県指定史跡1箇所の整備を継続して取り組みます。 ② 豆穀地区のみに伝わる伝統文化「赤米行事」への理解と支援が広がり、将来に渡って継承されるよう、見学・学習ツアー等を行います。 ツアー実施時期：9月上旬～中旬の間の1日 参加者 目標25名	
2	① ほぼ予定通り保存整備工事を実施しました。 ② 赤米の見学・学習ツアーを平成30年9月15日に開催し、目標としていた25名の方々に参加いただきました。	
実績（成果）		
3	◎	① 史跡整備については、計画どおり実施することができました。 ② 参加者数については、目標としていた25人の方々に参加いただき、大変好評でした。「また開催して欲しい」との声も聞くことができ、赤米行事に対する理解も得られたものと思います。
評価		
4	① 史跡整備については、平成30年度をもって第1期の整備期間を終えますが、令和元年度からの数年間は、次期整備へ向けた方針を定める大切な時期となります。まず最初の2年間は、「金石城跡」、「旧金石城庭園」の保存活用計画の策定を目指します。 ② 令和元年度は、赤米行事が伝承されている岡山県総社市、鹿児島県南種子町、対馬市の関係者が対馬に一同に会し「赤米サミット」を開催します。また、小学生同士の交流も深めるため「赤米交流事業」を開催します。	
今後の展開		